

地域医療支援病院業務報告書

令和 7年 9月 30日

愛知県知事殿

開設者 住 所 〒212-0021

〔法人の場合は、主たる
事務所の所在地〕 神奈川県川崎市中原区木月住吉町1番1号

氏 名 独立行政法人労働者健康安全機構

〔法人の場合は、名称及
び代表者の職・氏名〕 理事長 大西 洋英

下記のとおり、 6年度の業務に関して報告します。

記

1 病院の名称等

名 称	独立行政法人労働者健康安全機構旭労災病院					
所 在 地	愛知県尾張旭市平子町北61番地					
診 療 科 名	内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科					
病 床 数	精 神	感 染 症	結 核	療 養	一 般	合 計
	0	0	0	0	250	250

2 施設の構造設備

施 設 名	設 備 概 要
集 中 治 療 室	(主な設備) 救急蘇生装置、除細動器、ペースメーカー、心電図、ポータブルエックス線撮影装置、呼吸循環監視装置、人工呼吸装置、経皮的酸素分圧監視装置、経皮的動脈血酸素飽和度測定装置、微量輸液装置、超音波診断装置、心電図モニター装置、自家発電装置、電解質定量検査装置、血液ガス分析装置 病床数 4床
化 学 檢 查 室	(主な設備) 尿自動分析装置、血球自動分析装置、凝固分析装置、血糖分析装置、自動化学分析装置、血液ガス分析装置、アレルギー測定装置、血液沈降速度計
細 菌 檢 查 室	(主な設備) 同定・薬剤感受性パネル自動測定装置・安全キャビネット、血液培養装置

病 理 検 査 室	(主な設備) 自動包埋装置、ブロック包埋作成装置、自動染色機、排気装置、パラフィン包埋装置	
病 理 解 剖 室	(主な設備) 解剖台、遺体冷蔵庫、写真撮影装置	
研 究 室	(主な設備) 椅子、机、PC (電子カルテ用・インターネット用)	
講 義 室	室数 1室 収容定員 15人 (会議室3室を連結し、定員54人収容できる施設有り)	
図 書 室	室数 1室 蔵書数 2,000冊程度	
救 急 用 又 は 患 者 搬 送 用 自 動 車	(主な設備) ストレッチャー 保有台数 1台	
医薬品情報管理室	〔専用室の場合〕 床面積 9.73m ² 1室	

備考 1 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

2 規則第9条の2第1項各号に掲げる事項を記載した書類を添付すること。

別紙1

紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

1 算定期間 6年 4月 1日 ~ 7年 3月 31日

2 紹介率 74.6%

紹介患者の数 (A)	初診患者の数 (B)	紹介率 (A/B × 100)
5,184人	6,947人	74.6%

3 逆紹介率 88.7%

逆紹介患者の数 (C)	初診患者の数 (B)	逆紹介率 (C/B × 100)
6,164人	6,947人	88.7%

※1 各人数については、前年度の延べ人数を記入すること。

※2 紹介率及び逆紹介率は、小数点以下第1位まで記入すること。

※3 紹介率が80%以上であることを承認の要件とする場合で、紹介率が65%以上80%未満の病院にあつては、今後、2年間で紹介率を80%以上とするための具体的な年次計画を明らかにする書類を添付すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

共同利用の実績

(地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用)

1 共同利用の実績

※1 前年度の共同利用を行った医療機関の延べ機関数、これらの医療機関のうち申請者と直接関係のない医療機関の延べ機関数、共同利用に係る病床の病床利用率等を記入すること。

- ・共同利用を行った医療機関延べ機関数 1,190件
(開放型病床12件、講義室等21件、医療機器1,157件)
- ・開設者と直接関係のない医療機関延べ数 1,157件 (労災病院の共同利用なし)
- ・共同利用に係る病床利用率 14.7%

2 共同利用の範囲等

※2 病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象としたものを記入すること。

共同利用に関する規程	<input checked="" type="checkbox"/> • 無
利用医師等登録制度の担当者	氏 名
	職 種 地域医療連携室 係員

※3 共同利用に関する規程がある場合には、当該規程の写しを添付すること。

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住所	主たる診療科	申請者との経営上の関係
別添2-1の通り				

※4 申請に係る病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関についてのみ記入すること。

5 常時共同利用可能な病床数 5床 (201-①、314-①、414-①、364-①、465-①)

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

救急医療提供の実績

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

No.	職種	氏名	勤務の様態	勤務時間	備考
		別添3-1のとおり	常勤 非常勤	専従 非専従	

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	名称（重症個室）	12床
専用病床	名称（ICU）	4床

※ 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記入すること。

3 重症救急患者に必要な検査又は治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
ICU病棟	237.45m ² 81.15m ²	(主な設備) 救急蘇生装置、除細動器、ペースメーカー、心電計、ポータブルエックス線撮影装置、呼吸循環監視装置、人工呼吸装置、経皮的酸素分圧監視装置、経皮的動脈血酸素飽和度測定装置、微量輸液装置、超音波診断装置、心電図モニター装置、自家発電装置、電解質定量検査装置、血液ガス分析装置	可
救急外来	237.15m ²	(主な設備) 全身用マルチスライスCT装置、診断用一般撮影装置、デジタルX線画像診断システム、超音波診断装置、全自动血液ガス分析装置、生体情報モニタ、簡易式人工呼吸器、自動体外除細動器	可
手術室	816.85m ² 275.47m ² 375.11m ²	(主な設備) 骨手術器機システム、内視鏡システム、手術台、麻酔器、手術顕微鏡、眼科顕微鏡、超音波診断装置、超音波凝固切開装置、電気メス	可

検査科	284.28m ²	(主な設備) 臨床化学自動分析装置、血液ガス分析装置、血液分析システム、全自动グルコース測定装置、自動採血管準備システム、全自动グリコヘモグロビン測定装置、セーフティキャビネット、孵卵器、顕微鏡、全自动血液培養装置、セーフティキャビネット、自動包埋装置、ミクロトーム、クリオスタット、自動染色機	可
放射線科	602.51m ²	(主な設備) 全身用マルチスライスCT装置、オールデジタル透視装置、デジタルX線画像診断システム、RI装置	可

4 救急医療の提供の実績

救急用又は患者搬送用の自動車により搬入した救急患者の延べ数	2,765人（1,244人）
上記以外の救急患者の延べ数	5,689人（1,315人）
合計	8,454人（2,559人）

※（ ）内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

5 保有する救急用又は患者搬送用の自動車の出動回数

0回

6 備考

「救急病院等を定める省令」（昭和39年厚生省令第8号）に基づく救急病院認定
令和4年4月8日 愛知県告示第198号（認定期間 令和4年4月1日～令和7年3月31日）

※特定の診療科において、重症救急患者の受け入れ体制を確保する場合は、その旨を記入すること。
既に、「救急病院等を定める省令」（昭和39年厚生省令第8号）に基づき知事の救急病院の認定を受けている病院及び「救急医療対策の整備事業について」（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあつては、その旨を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

1 研修の内容

2 研修の実績 (一覧は別添4-1のとおり)

(1) 地域の医療従事者への実施回数	26回
(2) (1) の合計研修者数	316人

※ 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものも記入すること。

(2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

- (1) 研修プログラムの有無 ・無
 (2) 研修委員会の有無 ・無
 (3) 研修指導者

氏 名	職 種	診 療 科	役 職 等	臨 床 経 驚 数	備 考
別添4-2のとおり				年	
				年	
				年	
				年	
				年	

※ 研修責任者については、備考欄にその旨を記入すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施 設 名	床 面 積	設 備 概 要
講義室	35. 40m ²	(主な設備) 椅子、机、プロジェクター
図書室	70. 89m ²	(主な設備) 書棚、閲覧テーブル、医学文献検索用PC（インターネット兼用）
会議室 (501. 502. 503)	97. 34m ²	(主な設備) 椅子、机、ホワイトボード、プロジェクター、マイク、マイクスタンド

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

1 管理責任者等

	氏名	職種	役職等
管理責任者の 氏名、職種、役職等		医師	院長
管理担当者の 氏名、職種、役職等		事務	診療情報管理士

2 諸記録の保管場所及び分類方法

	保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約	病院日誌 各科診療日誌 →総務・会計事務室 処方せん →調剤室 手術記録以下 →病院情報システム	病院日誌 各科診療日誌 →日付順 処方せん →日付順 手術記録以下 →病院情報システム
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域連携室
	救急医療の提供の実績 (スタッフステーション)	救急外来
	地域の医療従事者の資質の向上を図るために研修の実績	地域医療連携室
	閲覧の実績	診療情報管理室
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携室

※ 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法
及び閲覧の実績

閲 覧 責 任 者	氏 名	職 種	役 職 等	
		医師	院長	
閲 覧 担 当 者	氏 名	職 種	役 職 等	
		事務	診療情報管理士	
閲 覧 場 所	診療情報管理室			
総 閲 覧 件 数	医 師	歯科医師	地方公共 團 体	そ の 他
	2	0	0	0
閲 覧 手 続 の 概 要 <ul style="list-style-type: none"> ・当院勤務以外の閲覧希望者は、「診療情報閲覧申請書」に記入して院長決裁にて承認後行える。 ・診療情報管理室以外で閲覧を希望する場合は、貸出扱いの手続きを取ることとするが、貸出の有資格者ではない場合は、診療情報管理士の許可を得る。 ・貸出時は診療情報管理士が医事システムに貸出登録を行う。 ・返却時は診療情報管理室に返却する。診療情報管理士は医事システムに返却登録を行い、保管位置に返却する。 ・当院勤務以外の者が、電子カルテを閲覧する場合は、診療情報管理室にて、当日限り有効の閲覧用ID・パスワードを発行する。 ・当院勤務以外の者が閲覧する場合は、閲覧当日に本人確認書類のコピーを提出する。 				

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

医療法施行規則第9条の19第1項に規定する委員会の開催の実績

1 委員会の開催回数 4回

・令和6年5月27日 ・令和6年9月4日 ・令和6年12月3日 ・令和7年3月10日

2 委員会における議事の概要

※委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

【第一回】

開催日時：令和6年5月27日（月）14:00～14:40

出席人数：13名／16名

議題等：

- ・地域医療支援・病診連携システム運営協議会委員名簿について
- ・患者数等の推移について
- ・令和5年度病診連携結果報告について
- ・施設共同利用について
- ・地域のみなさまへの研修一覧について
- ・外来診療担当一覧表について
- ・病診連携システム登録医名簿について
- ・各委員からの質問事項や意見について

【第二回】

開催日時：令和6年9月4日（水）14:00～14:47

出席人数：15名／16名

議題等：

- ・地域医療支援・病診連携システム運営協議会委員名簿について
- ・患者数等の推移について
- ・令和6年度病診連携結果報告について
- ・施設共同利用について
- ・地域のみなさまへの研修一覧について
- ・外来診療担当一覧表について
- ・病診連携システム登録医名簿について
- ・各委員からの質問事項や意見について

【第三回】

開催日時：令和6年12月3日（火）14:00～14:37

出席人数：12名／16名

議題等：

- ・愛知県による地域医療支援病院の業務報告書にかかる現地調査について
- ・患者数等の推移について
- ・令和6年度病診連携結果報告について
- ・施設共同利用について
- ・地域のみなさまへの研修一覧について
- ・外来診療担当一覧表について
- ・病診連携システム登録医名簿について
- ・各委員からの質問事項や意見について

【第四回】

開催日時：令和7年3月10日（月）14:00～14:35

出席人数：12名／16名

議題等：

- ・患者数等の推移について
- ・令和6年度病診連携結果報告について
- ・施設共同利用について
- ・地域のみなさまへの研修一覧について
- ・外来診療担当一覧表について
- ・病診連携システム登録医名簿について
- ・各委員からの質問事項や意見について

患者相談の実績

患者相談を行った場所	患者サポートセンター		
患者相談担当者	氏名	職種	役職等
		MSW	医療ソーシャルワーカー
		MSW	医療ソーシャルワーカー
		看護師	退院調整看護師
患者相談件数	令和6年度実績 18,021件（延べ件数）		

患者相談の概要

○医療・福祉相談

相談時間 土日祝日を除く毎日 8時15分から17時00分

・経済的問題の解決・援助

医療費や生活費に困っている場合に、保険や福祉制度が利用できるように援助

・療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助

傷病から感じる不安、悩み、社会的な問題に早期に対応するための相談に応じ、各種サービスの活用・調整等を行う。

・受診援助

生活と傷病の状況により適切に対応した医療の受け方を援助

・退院（社会復帰）援助

自宅退院するために必要な社会資源の調整や転院、施設入所の相談

※ 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

居宅等における医療の提供の推進に関する支援の状況

居宅等医療提供施設等における連携の緊密化のための支援等の実績

- ・在宅復帰へ向けた多職種によるカンファレンスの実施
- ・大腿部頸部骨折地域連携パス会議への参加（年3回）
- ・瀬戸旭医師会および名古屋市守山区医師会との地域医療連携意見交換会の開催（年2回）
- ・近隣医師会及び歯科医師会と地域医療連携のための協議会の開催（年4回）
- ・在宅療養後方支援病院として在宅医療を提供する医療機関との連携

医療を受ける者又は地域の医療提供施設に対する情報の提供の実績

- ・ホームページ、地域住民向け広報「あさひ燐々」、開業医向け広報「旭ろうさい病院ニュース」などを利用し、当院の最新情報などを広く周知。
- ・開業医向けに「旭臨床懇談会」を開催し、地域の医療の質向上に向けたレクチャーを実施。
- ・地域住民向けに市民公開講座および座談会を開催。

その他居宅等における医療の提供の推進に関し必要な支援の実績

- ・看護師による支援の実施
看護師が在宅酸素療法、在宅自己注射、在宅自己導尿を行っている患者を中心に、自宅療養上の注意点等を指導し、支援している。
- ・認定看護師による支援の実施
認定看護師（感染管理、がん化学療法看護、摂食・嚥下障害看護、皮膚・排泄ケア）が患者支援および居宅介護施設等職員へのアドバイスを実施している。
- ・言語機能聴覚士（ST）による嚥下カンファレンスの実施
居宅系介護施設等の職員と入居者の嚥下カンファレンスを実施し、適切な口腔ケアの指導や適切な食形態の検討等について支援している。

その他地域医療支援病院に求められる取組みの状況

1 連携体制を確保するための専用の室、担当者

専用の室の名称	地域医療連携室		
担当者	氏名	職種	役職等

2 病院の機能に関する第三者による評価

評価を行つた機関名	公益財団法人日本医療機能評価機構
評価を受けた時期	2021年7月24日～2026年7月23日 (3rdG:Ver. 2.0)

※ 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

3 退院調整部門の取組

退院調整部門の実績

入退院支援センターにMSW（2名）や退院調整看護師（5名）を配置し、入院前及び入院後、早期に患者への介入をして退院支援計画書を作成、急性期治療後を見据えた患者の転院、介護福祉施設、在宅介護サービスなど、退院後の相談・支援体制の環境整備を図っている。

退院調整実施件数：1,929件

各種支援に係る診療報酬の算定件数：入退院支援加算 3,417件、

退院時共同指導料 17件（3者以上14件）、介護支援等連携指導料 134件

4 地域連携を促進するための取組みの実績

策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容

- 大腿骨頸部骨折地域医療連携パス

地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み

- 地域連携パス会議の開催と地域医療機関等への周知

5 病院が果たしている役割に関する情報発信の実績

情報発信の方法

- ホームページ、病院広報誌「あさひ燐々」、地域連携情報誌「旭ろうさい病院ニュース」

内容等の概要

- ホームページや各種情報誌を通じて、患者や地域医療機関に向けて当院の医師や設備を情報発信している。